

2010年6月18日(金) 15:00~18:00

東京大学駒場キャンパス 18号館4階

コラボレーションルーム1

使用言語: 英語 (通訳なし)

要事前登録: [p-sabbar@mrg.biglobe.ne.jp](mailto:p-sabbar@mrg.biglobe.ne.jp) (早尾まで)

「ホロコーストが起きたためユダヤ国家が必要となった」、「聖書時代以来の対立であるため、ユダヤ人とアラブ人の共生は不可能」こうした見方が一般には歴史常識として根強い支持を得ている。シュロモー・サンド氏の新著『ユダヤ人の起源』(ランダムハウス講談社)はこうした固定観念に正面から挑んだ世界的話題作だ。邦訳刊行を機に企画された本来日講演では、人種主義的な意味でのユダヤ人定義の創出や、他のジェノサイドから卓越した存在としてのホロコーストの絶対化といった政治的言説が、イスラエルをいかにして正当化してきたのかを論ずる。自らを「ユダヤ国家」と規定するイスラエルにとって、「民主国家」としての多元的共生は可能なのか。この議論は、人種主義と民主主義とのあいだで揺れ続けてきたヨーロッパや日本にも差し向けられるであろう。

講演者略歴:

シュロモー・サンド (Dr. Shlomo Sand)

1948年にオーストリアのリンツ生まれ。

専門領域は近代社会における知識人の思想および地位、歴史と映画の関係、さらにナシオンの結晶化過程におけるナシオン概念の存在に及ぶ。

著書に『スクリーンに見る20世紀(Le XXe siècle à l'écran)』(パリ:スユ社、2004年)、『言葉と土地—

イスラエルの知識人(Les Mots et la terre: les intellectuels en Israël)』(パリ:フェイヤール社、2006年)

『ユダヤ人はどのようにして作りだされたか—聖書からシオニズムまで』(パリ:フェイヤール社、2008年)

(ヘブライ語版が初版『ユダヤ人はいつどのように創造されたか(Matai ve'ekh humtza ha'am hayehudi?)』)

主催:  
東京大学グローバルCOE「共生のための国際哲学教育研究センター」  
科研費基盤(A)「近代世界におけるジェノサイド的現象に関する歴史学的研究」

共催:  
DAYS JAPAN (代表: 広河隆一)  
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 基幹研究「中東・イスラーム圏における人間移動と多元的社会編成」

「イスラエル—ユダヤ国家と民主国家の両立は可能か—」

Israel - Jewish and Democratic